

えすぽわーる

えすぽわーる新函館はJA新はこだてとみなさんを結ぶコミュニケーション誌です

2

2015
No.150

— SHINHAKODATE —



CONTENTS

特集 明日を担う手 ②

～目指すは“楽”農～

七飯町 山川涼平さん
大地さん

◆協同の力 ④

◆あぐりねっと風だより ⑤

知内・厚沢部

◆トピックス ⑥

全国牛削蹄競技大会 他

◆海外視察研修 報告 ⑦

◆街の生き粋女性 ⑩

◆あぐりレッスン ⑪

◆組合員懇談会 報告 ⑫

◆JAグループ北海道 改革プラン ⑭

◆地産地食図鑑 ⑳



JA新はこだて

<http://www.ja-shinhakodate.jp/>

特集

明日を担う手

地域の食と農業を守る—
高い志のもと、地域農業の将来を担い、幾多の試練に挑みながら、農業に真っ向から向き合う若き農業従事者「明日を担う手」をシリーズで紹介していく。

一日指すは“楽”農
——山川涼平——
大地

酪農を究めるため進学

「小さい頃から生き物に興味があった」と口を揃えるのは、七飯町大沼地区の山川涼平さん(25)、大地さん(23)。(有)山川牧場自然牛乳の4代目の経営者である明さん(55)の後継者だ。

牛舎での牛群管理を担当する次男の涼平さんは、江別市にある酪農学園大学付属高校(とわの森三愛高等学校)を卒業後、帯広畜産大学に進学。在学中は家畜栄養学を学ぶ傍ら、搾乳バイトやサブヘルパーとして近隣酪農家10数件を見て回った。「アルバイトを通して実際の農場経営を見

てこれたのが特に勉強になった」と振り返る。

加工施設での製造、牛乳配送を担当する三男の大地さんは、本別町にある北海道立農業大学校に進学。実習を中心としたカリキュラムの中で、乳牛と肉牛を飼育し繁殖技術や乳製品加工技術の習得、トラクターやショベルカー等の農機操縦を実践的に学んできた。

2人とも学校卒業と同時に就農し、今年で4年目。明さんは「後継者はどうするか悩んでいた時もあったが、うちの場合は幸い、自発的に農業の道に進んでくれて、こんなに嬉しいことはない」と笑顔で話した。



牛乳配送に備えてカゴを詰め込む大地さん

地域に密着した酪農を

就農当初の心境として涼平さんは「小さい頃から手伝ってきたので不安な気持ちは無く、逆にやりたい事がたくさんあって意欲にあふれていた」と瞳を輝かせ話した。牛群の改良はその1つ。乳を搾りやすく病気に強い牛の繁殖に力を入れており、そのため乳検データは貴重な資料。そのため乳検データが数値化され、改善すべき箇所を具体的に把握できる。いい牛を並べていきたい」と意気込む。

大地さんは「酪農も地元大沼も好きなので、この先もこの道のプロフェッショナルを目指して、地域に密着した酪農をしていきたい」と話し、現在の担当である製造のほか牛舎での飼育管理等のすべての技術を身に付けることを目標としている。

牧場では、一般消費者が牛舎を見学できるようにしており、「防疫の観点から幾重にも予防策を施しているが、その手間以上に餌を食べる様子から子牛の分娩まで牧場の現場を見てほしい思いがある」と明さん。続いて、涼平さんと大地さんは「身近に感じてもらえれば、酪農の仕事にさらにやる気が出るし、酪農は楽しい『楽』農になる」と笑顔で強調した。

今月の
表紙



総頭数約150頭(ホルンスタイン110、ジャージー40)を飼育する牛舎の1つで撮影しました。左から山川明さん、涼平さん、大地さんに並んでいたとき、ジャージー牛も可愛らしく写り、笑顔で撮影と取材に応じていただきました。



エサの牧草ロールを崩して牛舎の牛に与えます

共選施設がリニューアルし 意気込み新たに

北斗市野菜生産出荷組合 きゅうり部会

1人ひとりの力を合わせ、大きな力に。協同の力〴〵で地域農業をけん引する組織を紹介していく。今回は、北斗市の29人のキュウリ農家からなる「北斗市野菜生産出荷組合 きゅうり部会」のご紹介。

北斗市のキュウリはここが自慢！を教えてください。

西村部会長 まずは出荷時期が他産地と異なることです。きゅうり部会の生産者はトマトなどと合わせて栽培しているの、夏にトマト、秋にキュウリの収穫となり、道内他産地のキュウリ出荷時期が終わりかけになる10月頃に、北斗市産の抑制キュウリが出荷されます。

山本副部会長 もちろん品質面でも自信を持って出荷しています。

西村部会長 部会として厳格な選果基準を設けていますので、部員みな良質なキュウリを出荷するよう努めています。

オスメの食べ方としては、漬物ではなくサラダで食べるのがオスメ。甘さが自慢なので、今流行りのスティックサラダにして食べてほしいですね。

山本副部会長 何でもオスメ。食べる人の好きなように食べてもらいたいです。

部会員数の増加に向けて、生産部会としてどのような取り組みを構想していますか？

山本副部会長 部会としては、普及センターや種苗会社を招いた勉強会を実施しているので、技術的な面を学んだり、部員間で意見交換できる場にもなっていて、新規会員も参加しやすい体制となっています。昨年もキュウリ栽培を始めたという人が何人か来ていました。

西村部会長 きゅうり部会の部員は全員トマトも栽培しているので、そのトマト部会の人たちに声掛けをして部員数を増やしたい。キュウリと同じくハウス栽培のトマト生産者に「キュウリの栽培を始めた」と思ってもらいたいですね。部員数が増えれば部会全体としての出荷量も増えますし、出荷始めや終わりがけ時期の出荷量を増やせば、出荷時期の延伸や有利な販売に繋がります。

共同選別施設のリニューアルに対する期待と意気込みをお願いします。

西村部会長 更なる効率の向上と共選施設に関する人件費の削減が期待されます。

山本副部会長 秋の出荷ピーク時には、共選場で作業員が遅い時間まで働いている状態だったので、それも大きな課題でした。

西村部会長 共選機械が新しくなることで、これまでの課題を改善するだけでなく、機械が壊れるトラブル等についてしばらく心配する必要がなくなった、長い期間、経営の安定を図ることが出来るので、部会員だけでなく、これから始めたいと思う人も安心してキュウリを作付できると期待しています。今後の意気込みとしては今までと変わらず、キュウリの産地としても品物も全国一を目指していきます。

山本副部会長 部会長と同じく、部員みんなで良質なキュウリを作りたいです。

取材 大野支店 田中善晃



山本稔 副部会長(50)

西村孝夫 部会長(45)

知内

ニラ収穫

今年も上々



▲「これからもニラ栽培で経営を続けられるように何事も頑張りたい」と光宏さん

年が開け、知内町ではニラ「北の華」の収穫が始まった。森越地区の櫛引光宏さん（36）の加温ハウス2棟では、例年より3日ほど早い1月21日から収穫作業が開始。「高温障害もほとんど見られず、最高のスタート」と笑顔を見せた。

初日はコンテナ4ケース分（45kg）を収穫。「ようやく収穫を迎えて嬉しいが、始まったばかりなので気は抜けない。ハウスの温度に大きく影響するので、天気を感じしながら収穫に力を入れた」と意気込む。また、無加温ハウス9棟での収穫は2月下旬から始まる見込み。

（取材 知内支店 尾辻凌

厚沢部

温泉熱で

アスパラガス収穫



▲「暖房費を一切掛けずに、温泉熱だけで収穫できて嬉しいです」と利光さん

厚沢部町上里の福島利光さん（61）のハウスでは、伏せ込みアスパラガスの収穫が1月4日から始まった。

利光さんは、他にも立茎アスパラガスや食用馬鈴薯、水稻を作付しているが、冬場の所得確保のため、今シーズン初めて伏せ込み栽培に取り掛かった。

昨年5月に苗を定植し、夏場の露地栽培を経て11月にハウスの中に移した。熱源は敷地内に湧き出る温泉を利用し、ハウス内は15度で一定に保っている。日量3箱（18キ）ペースで出荷し、2月いっぱいまでの収穫を見込んでいる。

「暖房器具を使うのと違って温泉の温度は一定なので、外気温に合わせたハウス内の温度調整が難しいが、トンネルをこまめに開閉したりして適温に保つようにはしています」と笑顔で話した。

（取材 本店 藤島諒司

最優秀賞 受賞！ SPF豚協会 生産成績最優秀農場表彰



◀最優秀賞を受賞し壇上で挨拶する
小林専務(写真提供 日本SPF豚協会)

昨年11月6日、東京都千代田区で催されたSPF豚セミナーで、森町のサクセス森(高瀬幸巳代表取締役)が、生産成績最優秀農場表彰の総合生産成績部門で最優秀賞を受賞した。

SPF認定申請時の生産成績指数を採点基準として、直近3ヵ年の平均で順位が決まり、全国の一貫経営約120農場のトップに輝いた。

当日受賞式に出席した小林久修専務は「農場立ち上げから13年が経過し、マンネリ化してきていると感じていたが、この賞を機会に再度モチベーションを上げ、またこの壇上に立てるようにしたい」と受賞の喜びを語った。

日本一に輝く 全国牛削蹄競技大会



◀「全国一となって嬉しい」と宅見さん

昨年11月13日、茨城県水戸市で催された第56回全国牛削蹄競技大会(日本装蹄協会主催)に七飯町の削蹄師 宅見慎吾さん(40)が、実技と筆記試験の総合で優賞を収め、悲願の全国一となった。

大会には全国各地を勝ち抜いてきた24人が出場。蹄を削って整える実技試験と削蹄判断を問う筆記試験が行われた。「全国優賞を目指して技術を磨き、オーダーメイドの靴を作るように心掛けてきました。今でも判断に迷う時には、恩師の鈴木征逸削蹄師(長万部在住)に指導を頂いており、ひとまず目標は達成したので、技術を落とさず弟子の育成に努めたい」と意気込んだ。

地場産野菜の手料理を楽しむ 第7回新・かあさんの味自慢



◀地元産の農産物を使った手料理に手を伸ばす来場者

1月10日、北斗市(旧大野町)を中心に活動する大野支店女性部、一期会、かりんの会の3団体30名は、北斗市農業振興センターで「第7回 新・かあさんの味自慢」を開いた。約200名の来場者が訪れ、農家の食卓の味を堪能していた。

会場には、「ごぼうの煮物」「赤かぶ千枚漬け」「切り干し大根とりんごのサラダ」など女性部員らが工夫を凝らした手作り料理が約150品並んだ。

函館市内から訪れた70代男性は「漬物を楽しみに来ました。特にキュウリの漬物が、柔らかさとシャキシャキ感が絶妙で美味しかった」と試食を楽しんでいた。

「餅つき囃子」が注目を集める 「丘の駅」OPEN1周年記念イベント



◀力強く披露した青年部による餅つき囃子

1月11日、八雲町のもち米消費拡大推進協議会は、八雲町情報交流物産館「丘の駅」で開かれた「OPEN1周年記念イベント」(八雲観光物産協会主催)に参加し、餅つき囃子を披露し会場を盛り上げた。

掛け声に合わせてテンポ良く杵をつく「餅つき囃子」は、落部支部青年部が揃いの法被姿で披露した。「やくもっちい」も登場し、周りには子供たちの輪ができた。

同協議会の柴田英晴会長は「昨年は町外のような場所でもち米をPRして手応えを感じた。この調子で今年も多くのイベントに参加してPRしていきたい」と意気込んだ。

平成26年度 (第5回) 海外視察研修報告

当JA事業である担い手育成を目的とした第5回海外視察研修を平成26年11月22日～12月1日の10日間、オーストラリアにて実施致しましたので、研修内容について報告を掲載させていただきます。

<研修日程&研修先>

- [11月23日] シドニー近郊
①和牛牧場 ②野菜農家
[11月24日] メルボルン近郊
③メルボルン近郊農家との交流会
④複合経営農家
[11月25日] メルボルン近郊
⑤朝市 ⑥野菜農家 ⑦苗木栽培会社
[11月26日] メルボルン近郊
⑧大規模トマト農家
[11月28日] シドニー近郊
⑨卸売市場 ⑩大型農業機械取扱会社
⑪酪農施設

<参加者>

- 北村 卓馬(八雲町・団長)
相良 洋平(厚沢部町)
山口 誠(せたな町)
手塚 真広(知内町)
吉田 知也(知内町)
山本 隆久(北斗市)
斉藤 哲也(北斗市)
松倉 史和(函館市)
小澤 栄達(七飯町)
佐橋 智也(森町)
長谷川雄基(八雲町)
沼山 規章(事務局)



ブルー・マウンテンズ国立公園にて

<研修目的>

- 次代を担う青年農業者の育成を図り資質向上、研鑽を積む。
- 先進諸国を実際に視察する事で世界の現状を直接感じ、地域農業に対する問題意識を醸成する。

- 実践活動として経営改善、生活改善、更には、地域農業の振興発展に資する。
- 海外の生産流通体制や食料の安全性確保・安定供給等の取り組みについて研修する。

視察①「和牛牧場」について ～ベルツリー牧場～

[概要] 豪州における『WAGYU』農家は約77,000戸で肉牛生産農家の約50%にのぼる。視察先である鈴木崇雄氏は和牛の血統遺伝子の販売や肥育業者への販売だけではなく、自らも穀物肥育を行い、飲食店に肉牛を直接提供している。

[所感] 鈴木氏近隣の一般的な『WAGYU』はサンが日本の和牛ほど入っていなかったが、豪州農家に鈴木氏の飼養管理技術(日本的な個体管理)が受け入れられ、質の面で日本と大差なくなった時のために日本の和牛農家がとるべき対応が、現状の取り組みで事足りるのか不安を持った。



和牛らしいサンが入っている、鈴木氏が生産した牛肉の断面

視察②「野菜農家」について ～エクセリーベジタブルファーム～

[概要] 豪州においては比較的小規模な14畝程の農地で、多種の野菜を栽培。豪州の土壌は日本とは違い、火山が少なく、世界の中でも最も古い土壌が残っているため多くの栄養分を含んでおり、大量の肥料は必要としない。

[所感] 豪州農業は、その特徴的な気候による水不足との戦いだとの意見もあり、水の多い地域と少ない地域とでは栽培される作物も異なる。長年その地で農業を営んできた豪州の人々の考えた農法・工夫を色濃く感じ取ることができた。



堆肥には鶏糞とウサギの糞を使用

視察③「メルボルン近郊農家との交流」について

[概要] メルボルン近郊農家及び小麦生産出荷組合職員らとレストランにて昼食をとりながら、互いの農業事情等について情報交換。

[所感] 豪州では農業の水への価値観は高く、1年の作付が降水量によって左右されてしまう。それでも「農業を辞める」ではなく、「どのように経営していくか」と常に向上心を持って取り組んでいる姿勢は、見習っていくべき点だと感じた。



農業事情等について意見を交わす参加者

視察④「複合経営農家」について ～マーロング農場～

- 〔概要〕 白小麦(デムラ)や赤小麦(飼料用)、ルーピンの他に豚や羊等を栽培・飼育。防除は基本的に益虫を利用するIPM栽培(総合的病害虫管理)で行っている。益虫はてんとう虫、寄生蜂を使用。農薬はスポット的に害虫のみを駆除するものを使用し益虫を守っている。
- 〔所感〕 防除に益虫を使用する等、環境に配慮した農薬使用を行うとともに、コスト面においても、不耕起栽培で燃料費を節約したり、自家採取を使用するなど、日本農業との違いが多く勉強になった。



保管飼料の様子も視察

視察⑤「朝市」について ～ビクトリアマーケット～

- 〔概要〕 メルボルンにある南半球最大の朝市。食品や衣料品、雑貨などあらゆる品物が売られており、地元の人をはじめとより世界中からショッピングに訪れている。また、出店するためには2～3年待つようやく出店できるほど人気がある。
- 〔所感〕 運営・マーケティングがしっかりしているだけでなく、市民にとって不可欠な場所として支えられていることから、活気のある市場であると認識できた。



地元の新鮮な野菜を販売

視察⑥「野菜農家」について ～ピーター・シュラース&サンズベジタブルファーム～

- 〔概要〕 160㌦の農地を所有し、リーク、ベビーコスレタス、レディキオ(紫キャベツ)など露地野菜のみを栽培。化学肥料主体の土作りだったが、鶏糞や出荷の際に出る野菜の生ごみを利用したコンポストを使用するなど有機肥料主体に切り替え、収量を増加させている。また、収穫後の調整・選別・包装までの一貫作業を行っており、出荷先ごとに形態を変えて取引先のニーズに応えるようにしている。
- 〔所感〕 豪州の大規模農業形態を想像していたが、鶏糞やコンポストを利用した有機肥料主体の土づくりにこだわっていたことは意外だった。また、選別施設についても、農協の共選場クラスの施設を個人所有していることに驚きを感じた。



デザイン賞受賞の大型機械を前に笑顔の参加者

視察⑦「苗木栽培会社」について ～Faceys(フェイスーズ)～

- 〔概要〕 1959年創業で従業員は20名。苗木、鉢花、グランドカバー(芝生)等を14㌦ポットに2,000種類以上、約70万株を栽培している。益虫を利用した低農薬栽培を心掛け、使用済の水を再利用する施設を設置して水利権を確保するなど、資源・環境への配慮に尽力している。
- 〔所感〕 益虫を利用するIPM栽培(総合的病害虫管理)が確立されている点に感銘を覚えるとともに、日本でも減農薬・食の安全という面を考えれば、早いうちに普及してほしいと思った。



鉢花の土入れは従業員の手作業

視察⑧「大規模トマト農家」について ～バラカストマトファーム～

- 〔概要〕 豪州最大級の300㌦で経営するトマト栽培農家。2011年には1万トンを超すトマトを出荷。トマトの皮は薄く甘い品種で、ホルモン処理は行わず自然受粉で着果させている。また、樹が太りにくい品種のため、基本的に無肥料で栽培し、地力とわずかな施肥での栽培を行っている。
- 〔所感〕 豪州の最低賃金が時給約1,800円と高額なため、できる限り手間をかけない栽培方法をとっており、収穫作業でも基本の時給はあるものの、出来高払い制を取り入れ、収穫量の確保に取り組んでいる点が印象的だった。



作業性を重視した品種が作付されている

視察⑨「卸売市場」について ～フレミントンマーケット～

〔概要〕 41畝の広さを誇り、市場内は青果、バナナ、園芸、生産者直販、花卉園芸市場に分かれている。また、敷地内にも鉄道が走っており、直接農産物を荷降ろししている。東西南北に延びる高速道路も近くにあり、交通の便が良く、倉庫やショッピングセンター、ビジネスセンター、ホテルなどの設備も整っている。

〔所感〕 一般の人たちが入場可能で卸値で購入可能なことも販わう理由の一つと考えた。また、ほとんどの野菜が国内産というのは安心感が大きいと感じた。



市場内の説明を熱心に聴く参加者

視察⑩「大型農業機械取扱会社」について ～GWS農業機械取扱会社～

〔概要〕 シドニー近郊の農業地区であるホークスベリー、セントベリー地区にて、ファーガソンやフェント、イセキ等のメーカーを取扱っている。同社近郊は芝生農家が多く、中小規模の農家向けの販売となっている。

〔所感〕 トラクターの価格は、南半球という離れた環境でありながら、日本で購入する価格とあまり変わらなかったことに驚きを感じた。また、普段あまり見られない芝生の専用機械や芝生を農業として営んでいる農家について知識を得る事ができた。



日本製のメーカーも展示

視察⑪「酪農施設」について ～シドニー大学コスターファインキャンベン農場～

〔概要〕 豪州酪農の先進技術を研究する施設。無畜舎による周年放牧が飼養形態の基本であり、施設の年間出荷量は3,225トンの250頭の乳牛について1度に20頭、1時間に80頭のペースでAMR式にて搾乳している。

〔所感〕 広い放牧地を所有しているので、大型機械を使つての管理だと思っていたが、牛を放牧犬で追うという方式をとっていることが意外だった。また、豪州農業の永遠の課題である水の問題も研究しており、牧草地の灌水設備については大型スプリンクラーを使用し、GPSにより、管理された時間に稼働するようシステム化されていた。



搾乳システム等についての
レクチャーを受ける

【研修全体を通しての総括】

豪州では農家に対する国からの補助事業は一切なく、干ばつと洪水を繰り返す気候の中でも、国や救済金などに頼らず、すべてを自らの責任のもと経営を行っている点に感銘を覚えました。また、益虫を利用した防除等、スケールメリットを活かした効率的で手間をかけない作業体系を通じて、豪州農業における安心・安全に対する高い意識は見習う部分がありました。さらに、豪州では親から子へという経営移譲の形は必ずしも主流ではなく、「自分が農業をやりたい」という高い意識のもとスタートしている人が多く、このことも国際競争力の強さに繋がっているのではないかと考えました。

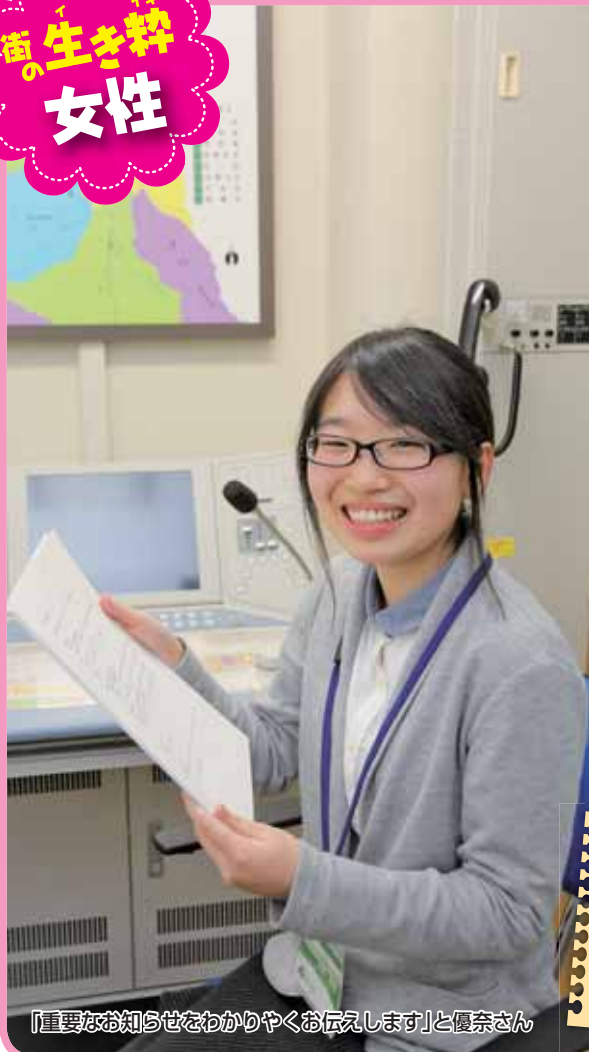
最後に、今回の視察研修に尽力下さいましたJA役職員の皆様、そして各地区関係機関には改めて御礼申し上げますとともに、視察で得た経験は何物にも変え難いものとなり、非常に大きな財産となりました。これらを如何にJA新はこだて更には地域農業への力に変えていけるかが我々参加者11名の使命であると考えます。

農業情勢は依然厳しい状況が続いておりますが、我々農業者の立ち位置をしっかりと見据え、現状を踏まえ課題を洗い出し、将来ビジョンをしっかりと持ち、地域農業へ貢献して参ります。



オペラハウスを対岸に望む

街の生き粋女性



「重要なお知らせをわかりやすくお伝えします」と優奈さん

町の情報をお届けします！

せたな町役場 総務課

さしなみ

差波 優奈 さん(19歳)

今月の生き粋女性は、せたな町役場で働く差波優奈さんです。

優奈さんはせたな町出身。地元の高校を卒業後、地元に貢献したいとの思いで、昨年4月から働き始めました。

役場の顔として代表番号の応対、町内全戸に設置されている防災無線のアナウンスも担当し、災害時の緊急放送や日常の行政情報などをお知らせしています。「まだまだわからない事だらけですが、町民の方から感謝の言葉をいただく場面や地元で働いている事にとてもやりがいを感じています」と笑顔で話しました。

仕事で心がけている事は？

電話対応や防災無線など人に話す機会が多いので、きちんと伝わるように明るくはっきり話すように心掛けています。

休日の過ごし方は？

買い物を楽しんだり、スポーツを観たり楽しんだりしています。

今後の抱負

1年目でわからない事だらけですが、まわりの先輩たちからの助けをいただきながら学んで、力になれるようになりたいです。



優しい声で丁寧に対応します

はい、こちら大野支店。

職員にインタビューしました！



大野支店 生産施設課
成田健人 職員(23)



大野支店 共済課
山内佑斗 職員(23)

やりがいを感じる時は？

山内職員……学んできたことが、お客様のお役に立ったときです。

成田職員……生産者の方々から頼みごとの話をいただいたときは嬉しです。

大変なところは？

山内職員……共済以外の知識も必要とする仕事で、様々な業務に対応するところが大変です。

成田職員……色々な業務の内容を理解するのに苦労しています。

休みの日は何をしていますか？

山内職員……夏は野球に打ち込み、最近は友達と食事に行っています。

成田職員……野球やスキーが趣味で、今の季節はスキーを楽しんでいます。

今後の目標は？

山内職員……一人でも多くの方に自分を信頼してもらえるよう業務に励みたいです。

成田職員……他人の意見を聞くだけでなく自分の考えも伝えられるようにしていきたいです。



大野支店

平成26年度 試験展示ほ調査結果概要

渡島・檜山農業改良普及センター

平成26年度に実施した試験展示ほの調査結果の概要をご紹介します。詳しい内容については、農業改良普及センターまでお問い合わせください。

1 水稲

No.	課題名	試験区分	結果の概要
檜山1	水稲紋枯病 防除効果確認	試験区① 1回目:アミスターSC 2回目:バリダシナダフルカット 試験区② 1回目:バリダシナダフルカット 2回目:アミスターSC 対象区 1回目:バリダシナダフルカット 2回目:バリダシナダフルカット	紋枯病に対する効果は、アミスターSCを散布する試験区が対象区に優った。また、基幹防除1回目に散布する試験区①の方が優った。 いもち病に対する効果は、対象区と同様にあった。 薬剤調製について、対象区に対し試験区は混合剤であるため作業性は優る。 紋枯病に対する効果が優り、いもち病に対する効果が同等であることから、普及性は大きい。
	【目的】アミスターSCの紋枯病に対する効果を確認する ※本剤は採取およびその周辺では使用出来ません。		
檜山2	水稲減化学肥料における有機質肥料早期施用技術の現地検証 【目的】施肥窒素の無機化促進による、収量向上効果およびタンパク値が維持することを確認する	「パール有機」早期施用区 「パール有機」早期施用減肥区 YES!clean区 慣行区(パール有機)	有機早期施用では有機慣行に比べ初期生育が向上し、収量構成要素を確保できた。有機早期施用のアンモニア態窒素の発現パターンがYES!clean区と同様であり、有機慣行よりピーク時期が早くなった効果が出たと考えられる。 有機質肥料の早期施用は蛋白値を維持し、収量が向上するために有効であり、普及性が高いと考えられる。
渡島1	水稲硝酸化成抑制材入り肥料の効果確認 【目的】硝酸化成抑制材入り肥料の直播水稲への効果を確認する	試験区1(全層Dd708) 試験区2(全層Dd708+UF585) 慣行区(タキカ603+UF585) 試験区(全層Dd708) 慣行区(683+444)	硝酸化抑制材入り肥料Dd708施用区は、1穂粒数の増加と穂数確保により、構成要素の確保が容易となることから(慣行比: +14~29%)、収量の高位安定と低蛋白となる傾向であった。また、追肥が不要であり、直播栽培肥料として有効である。窒素吸収効率が高いため施用量を考慮する。
渡島2	水稲新品種「きたくりん」に対する栽植密度試験 【目的】「きたくりん」の安定した収量確保を目的とした密植による栽培特性を確認し、栽培基準作成の資とする	密植区(平均:26.2株/m ²) 慣行区(平均:23.9株/m ²)	密植により、生育が同等~2日早くなった。また、有効穂数化率は高く、登熟の向上と収量が増加した(慣行比: +6~11%)。きたくりん栽培においても密植による生育の斉一性及び収量の安定と品質向上が図られた。
渡島3	温度調節付き保温ヒーターを用いた種籾浸漬試験 【目的】種籾浸漬時に、投げ込み式保温ヒーターと小型水中ポンプで適正水温(11~12℃)に維持し、適正日数で吸水させて安定した催芽状態を確保する	保温区(ヒーター使用10~12℃) 冷温区(水温5℃) (参考:外気温データ)	ヒーターの使用により、一定の水温が維持されて良好な発芽が確認された。 催芽時間15時間後の出芽:保温区84%、冷水区0%。

2 畑作

No.	課題名	試験区分	結果の概要
檜山3	馬鈴しよ施肥試験 【目的】適正な施肥窒素量の確認	キタアカリ(露地) ①8kg ②9.6kg ③11.2kg とうや(マルチ) ①8kg ②6.4kg ③9.6kg	施肥窒素8kg/10aが、秀品収量が多く経済性も高いことから、地域の適正な施肥窒素量と判断する。

3 園芸

No.	課題名	試験区分	結果の概要
檜山4	ブロッコリー品種特性調査 【目的】地域の春まき栽培における品種特性を調査する	①玉麟(TSX-303) ②SK9-099 ③ジェットドーム(慣行)	地域の春まき栽培において、玉麟は収穫時期が慣行に5~7日程度遅れ、花蕾表面の外観が劣る場合があるが、花蕾のしまり、形状が良好であり、普及性がある。 SK9-099は収穫時期が慣行に4日程度遅れるが、形状、花蕾色の濃さが良好であり、普及性が高い。
檜山5	アスパラガス改植試験 【目的】ハウス立茎アスパラガスの改植方法について検討する	①既存株埋設改植区 [既存畦上に培土を行い改植] ②慣行改植区(慣行) [既存株を掘取り後改植]	アスパラガスの改植方法について検討を行った。 既存株埋設改植区の定植後の草丈、最大茎径は8月までは慣行改植区を上回る傾向にあったが、9月以降その差はなくなった。 改植にあたっての作業性については慣行改植区の既存株掘取りに多くの労力を必要とすることに対し、既存株埋設改植区の培土に要する労力は少なかった。
渡島4	トマト品種比較試験 【目的】新品種(サカタ:C2-436)と慣行品種の生育・収量・品質を作型毎に比較検討する	試験品種:C2-436 慣行品種:りんか409(半促成作型) 慣行品種:麗夏(夏秋作型)	試験品種は、小玉傾向で低収であったが、果実の揃いが良く高品質であった。 試験品種が慣行品種並の収量を確保できれば、部会全体で1億円の増収が試算できる。
渡島5	にんじんトンネル用資材の効果確認試験 【目的】トンネル用資材の保温・収量性の効果確認を行う	試験:PO系(サンパワートマルチ) 慣行:農ポリ	PO系は、保温性が高く初期生育は早く進んだ。また、収量性は高く(慣行比: +23%)、資材経費差引額は慣行を上回った。

渡島農業改良普及センターのホームページ

檜山農業改良普及センターのホームページ

<http://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm><http://www.hiyama.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

普及センター活動紹介、地域の動き・技術情報など、是非ご覧下さい！

組合員懇談会開催結果報告(要約版)

◆開催期間：平成26年12月2日(火)～12月4日(木)

◆開催状況：12地区・9会場で開催

◆出席状況：対象者数2,480人、出席者数207、
出席率8.3%

※要約版でありますことを予めご了承願います。

◇回答

総務部門

1. 役員の選任方法について、「完全推薦制」が総代会で承認されたが、その原案は当JA独自で作成されたものか。また、役員選任規程の修正や変更は今後可能か。

◇ 前回の役員推薦会議の意見・要望を踏まえ、理事会で協議し、総代会に諮り決議されました。勿論、規程変更は可能ですので、今回の問題・課題を整理して対応したいと考えています。

但し、「立候補制」に戻すのでは無く、「推薦制」を基本とした考え方で取り進めたいします。

2. 準職員の処遇が正職員と比較し

て低すぎるので退職する職員もいる。準職員の処遇を改善していただきたい。

◇ 準職員には、正職員への登用制度があります。職員資格認定試験の取得や基幹支店長の推薦が必要となっており、例年、5名前後の準職員を登用しています。

3. 酪農地帯での個体販売では、熟練した専門職員が必要であり、相当の経験年数を積むことが必要になる。中長期的な考え方で人材を育成してほしい。一人前になったと思える頃に人事異動では、専門職員は育たない。

◇ 地区役員からも個体販売に精通したスペシャリスト養成への要望がありますので、良い後継者を育成できるように、しっかりと勉強させて計画的に取り進めてまいります。

4. 現段階での女性の総代数、正組合員数を教えて欲しい。

◇ 女性総代は530名の内9名です。参考までに正組合員2500名に對して、女性の正組合員は193名で、その内経営者は148名です。

5. 現状では、女性農業者の参画は厳しいと思われる。地域、家族など周りからの支援や協力が無いと難しいのではないか。また、女性農業者を参画させるより、外部の女性を役員にして販売戦略等を立てた方が良いのではないか。

◇ 農水省指針に沿って取り進めているため、府県の経営を参考にした組み立てとなっており、北海道

の経営実態と相違しますが、女性の意見を広く経営に反映させることを目的としているため、家族また各地区内の支援や協力は必須であると考えます。

将来的に外部役員等も検討しますが、まずは指針に沿った女性農業者参画に取り組んでまいります。

6. 「女性農業者のJA運営参画促進運動」に関する現状の取り組み状況を教えて欲しい。

◇ 経営者として責任が発生するため、すぐに運営参画の取り進めは無理ですが、その前段として、女性部活動の活性化が必要になると思われま。現状は若い女性の加入率が低く、部員数が減少していることが大きな問題となっているため、今後策定する「組合員教育研修要領」等に基づき、計画的に勉強会、研修会を実施して理解を求めてまいります。

7. 金融事業の不祥事防止のため、定期的に人事異動をしていると聞か、他の防止策はどうなっているか。

◇ 信用共済部門は、長期間同一業務を担当した場合、不正に繋がるリスクが高くなることから、農水省指針により3年から4年で異動を行っています。

営農販売部門は、地域に密着した対応が求められるため、5年を基本に異動を行っています。防止策の一環として、職場離脱の実施、内部監査、中央会監査、その他検査等でけん制、検証機能に努めています。

8. 国は農協改革に何を求めているのか。

◇ 政府は全農等連合会の民間企業同様の株式会社化について前向きに検討しています。米の共同販売や肥料共同購入は農協以外が行うと独禁法に触れること等、政府の成長戦略において現在の農協組織の弱体化に繋がることが懸念されます。信用・共済事業も准組合員利用規制など法規制強化の動向等に注視することになりますが、農協は営農・販売等の農業関連事業主体の組織であり、政府の見解は必ずずれと判断しています。

農業振興部門

1. 乳牛導入に当たって、現状の延払い制度を見直しして、農家に対する直接的な融資はできないのか。

◇ 延払い制度は存続いたしますが、牛を担保とした貸付の場合は60%の掛け目となり、初任牛のみが対象となります。

2. 施設園芸の農家は忙しすぎて、生産者同士の情報交換が少なくなっている。生産者の技術の底上げをするためにも職員を増員し生産者巡回をして欲しい。

◇ 普及センターと連携し生産組織単位での現地研修会や勉強会などを開催し技術の平準化を効率良くできるよう支店とも十分協議・検討します。

3. 栽培技術について、普及センターが主体で行うべきだが人手不足であり、生産組織で勉強会等

行っているが、農協も技術を持った職員が定期的に訪問する体制ができないか。

◇ 人材育成基本方針として、なるべく同部署へ長く在籍させながら熟練者を育てていく方針で進めます。

4. 担い手対策について、支店でも婚活をしていて成果があると聞いていますが、もっと大規模にテレビ局を利用するなど本店で対応ができないものなのか。

◇ 現在では札幌の業者に依頼し女性に対する会話術やマナーなどの研修を受け、成果を出しています。本店としても支援をしたいと考えています。

5. 畜産物の販売額が、計画比10億円の間となっているが、生乳の出荷量が1300トンほど減少している。これに対して、今後の対策をどうするか。

◇ 減少した要因としては、今年1月から10戸ほどの生産者が離農したことなどによりです。乳量の確保など増強対策として、草地更新への助成や、増頭奨励として系統からは1頭2万円の助成等を行っています。

6. 肉牛等の個体販売が好調であるが、来年以降の見込みはどうか。

◇ 好調の背景には肉牛の素牛不足があり、この傾向は来年以降も続くものと思われる。

6. 草地更新は3年間と言わずに継続的に実施してほしい。

◇ 3年経過した時点で必要性が高いようであれば、事業を継続する

ことも検討します。

8. 賦課金について「公平性」の観点から見直しを図ってほしい。

◇ 賦課金は「10年間は見直しをしない」と説明してきた経過があり、10年間経過するまでは現状のまま、ご理解願います。

生産販売部門

1. ニラ共選施設再編計画の進捗状況について。

◇ 生産者の負担を軽減するべく、行政の施設を利用出来るよう、計画の見直しを含め国費事業化に向け行政に理解を求めながら進めています。

2. 東地区野菜真空予冷施設の移設計画について。

◇ 第4次中期経営計画においてH28年度迄に建設予定地を検討し、第5次中期経営計画で真空予冷施設その他、広域集出荷施設や物流の効率化に繋がる施設整備を進めてまいります。

3. ラッピングバス（函館バス）の効果は。

◇ J A の認知度アップと米の消費拡大を目的とし、動く広告塔として函館市内中心部の路線を運行しております。取組後、まだ短期間の為、目立った効果は表れていません。

4. 農産物価格の底上げを目指し、消費者等へ全農や報道機関を利用し、アピールすることはできないのか。

◇ 厳しい販売環境を改善するべく、

組合長を先頭に常勤役員が適宜、

取引先市場に向き、今までに増して強く販売要請に努めました。

◇ 今後は、関係機関の他、報道関係も活用した中で、価格底上げに向けた対策を検討します。

5. 野菜の販売価格が低迷しているが、今後、どのような対策を考えているか。

◇ 近年、市場取引の他、大手量販店や実需等に対する提案型販売、ルート販売を強化しており、現在のシェア14%から30%の拡大を目標とし、市場価格に左右され難い安定販売を目指した販路形成に努めます。

6. 雑穀販売について、業者と連携し、有利販売に努めてほしい。

◇ 小豆は十勝地方を中心に豊作で、在庫も多く暴落しました。黒豆・黄大豆は面積減で春先には価格が上りましたが、出来秋には豊作により低迷した経過です。今後は、ホクレン、関係業者と更なる協議を重ね有利販売に努めます。

7. トマトの価格低迷の要因は。

◇ 夏秋時期において九州産と量が重なり価格低迷となりましたが、需要期に出荷量が確保出来なかったことも要因に挙げられます。

8. 施設事業の部門別損益3億円の赤字の解消策は。

◇ 年々、改善傾向にあり、引き続き、収支改善に向け取り組んでまいります。

9. 米の価格が低迷する中、減収に對する手当は。

◇ J A 独自の経営安定対策として

国のナラシ対策加入者へ600円

／俵、未加入者へ300円／俵の対策費を年内に仮払いします。

◇ 資金面では過去3ヶ年の実績を踏まえ、収入が3ヶ年平均より下がる場合に営農安定資金での対応も考えています。

10. 今後の米価がどうなるのか、非常に不安である。主食用米以外で米の所得を確保する方策はあるか。

◇ 飼料用米に取り組むべく検討しておりますが、専用品種が無いことや倉庫保管問題を含め、課題が山積しており、現在、ホクレンにも対策を要請しています。

11. 米価低迷の中、来年度以降の米作付の取組、飼料米の取扱いやその管理・保管方法、受入先等についても含めどのように考えているか。

◇ 来年の取組みとしては配分面積のもと、まずは主食米、備蓄・加工米、更に上回った部分が飼料米となります。飼料米の販路は十分ですが、保管については近郊の倉庫を借入れる等検討しています。

12. 野菜販売担当職員は生産現場に足を運ぶ回数を増やし、農産物の知識向上と販売力向上に努めるべきである。

◇ 生産者巡回しやすい仕組みづくりに努め、生産者とのコミュニケーションが図れるよう進めてまいります。

差が大きいのはなぜか。

◇ 函館市内の価格表示が不安定なため、価格調査などに時間が掛かり価格差が大きくなりました。今後は、迅速な対応を行います。

2. J A 管内の同じ組合員で燃料の販売価格が違うのはなぜなのか。

◇ 燃料等の価格は、地区・路線市況価格があり、一般の方も利用しますの同一価格にはできませんのでご理解願います。

3. 販売金額の実績は、販売数量や単価上昇によるものなのか具体的に教えて欲しい。

◇ 灯油の落込みが大きく、暖冬や価格高騰による買い控えで販売数量が減少しました。販売金額は価格高騰による実績です。

4. 灯油や軽油の盗難について、農協の対応や対策はどうなっているのか。

◇ 灯油や軽油の盗難については、函館中央署と情報を共有して啓発するなどの防犯対策に努めています。

5. 整備工場の後継者について、今後退職者が出た場合は早めに対応願いたい。また、定年延長65歳退職後も、本人が了承すれば、技術指導などで、短期的に雇用延長できる仕組みや対応をお願いしたい。

◇ 後継者については、早めに対応いたします。また、定年延長の場合は、65歳までとなっており、再延長は出来ませんが、業務状況により必要が生じた場合、短期やアルバイト的な雇用で対応したく考えています。

その他

1. 花卉の訴訟費用について、J A が負担するのの内容を教えてください。

◇ 訴訟費用は6年間で10,264千円（旅費・弁護費用）発生しており、組合から支出しております。理事会で協議した結果、法的に認められた352,760円を請求額と決定して、11月4日に入金となりました。理事会では様々な意見もありましたが、今後の事業運営を考慮し、組合負担で対応しましたので、ご理解願います。

2. 大間原発に対するJ A の姿勢はどう考えているのか。

◇ 函館市並びに各関係団体と連携・協力し、今後も反対の姿勢で取り進めてまいります。

3. 新幹線が開通となるが、J A としてはなにかPRを考えているのか。

◇ 一般消費者に地元の特産物を知ってもらうという考えから、特に米の宣伝に取り組み、PR活動として行政等と連携し進めてまいります。

4. 新幹線の開業が間近に迫っているが、道南農業の生き残りをかけて「貨物新幹線」の運行について、J A が中心になつて道・行政に働き掛けて欲しい。

◇ 今後、知事と新幹線の有効活用について意見交換する予定でありますので、先に同様の要望はしておりますが、再度、要望してまいります。

(有)新はこだて協同

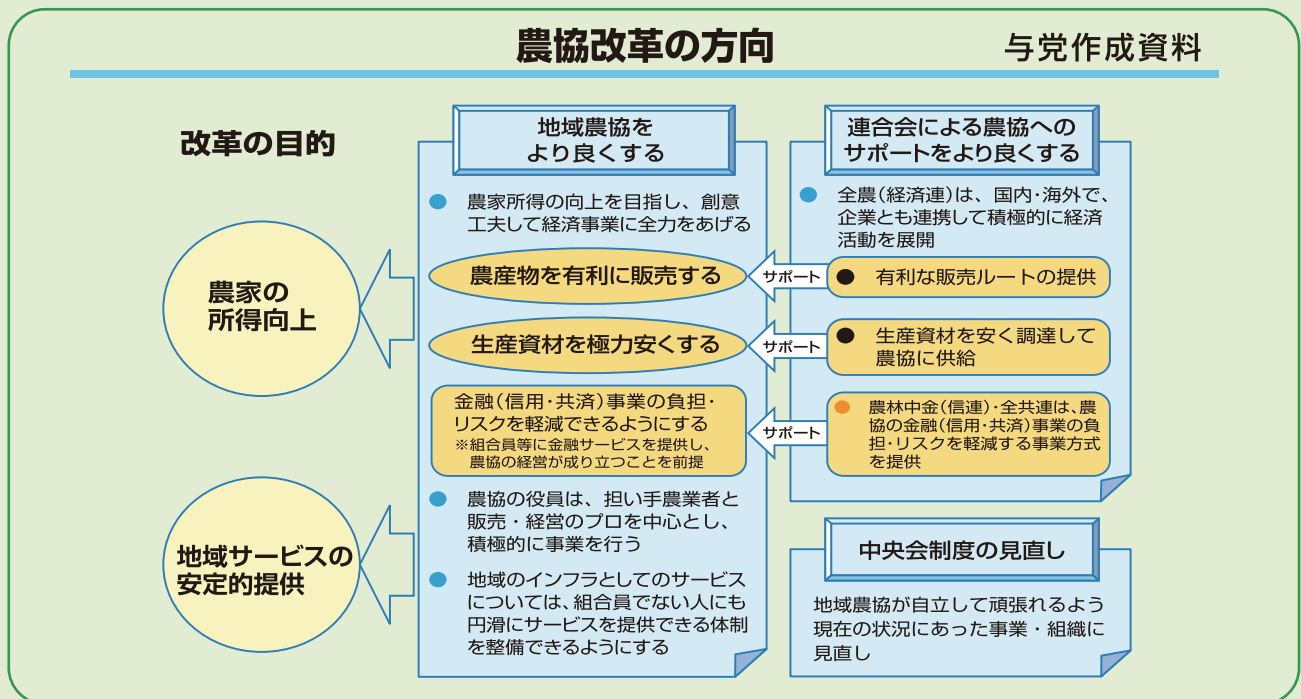
1. 大野と厚沢部でガソリンの価格

JAグループ北海道 改革プラン

ダイジェスト版資料

政府は、平成26年6月24日、規制改革会議の答申を踏まえ「規制改革実施計画」を閣議決定し、農協系統組織に自己改革を求める内容を示しました。

なお、この決定にあたっては、与党の農協改革に関する意見が反映されました。



JAグループ北海道は、6月17日の全道農協組合長会議において、組織・事業のあり方の見直しを行う「改革プランの策定」を決定し、8月から9月にかけて全道の組合員に参加いただいたうえで、「多様な価値観に応える北海道農業」「時代に即した協同組合への改革」をたたき台として、組合員組織討議を実施しました。

🗣️ 組合員・JAからの意見としては、

たたき台のうち、「収益向上の取り組み」「コスト削減の取り組み(生産資材価格を含む)」「担い手の確保・育成」「組合員の経営サポート」「営農販売事業のスペシャリストの育成・配置」「北海道のイメージやブランド力を生かした農業の魅力発信」について、JA・連合会・中央会に対して積極的な取り組みを求める意見が多数ありました。

また、「協同組合の原点に立ち返り組合員の意志に基づく事業運営を求める意見」「JAグループ全体のコスト削減を求める意見」「総合事業としての信用事業の維持(組合員勘定制度を含む)を求める意見」「共同計算・共同販売方式による農畜産物安定供給の継続実施を求める意見」が多数ありました。

JAグループ北海道は、全道の組合員からの意見を踏まえ、
「組合員の所得向上と農村地域の活性化」に向けて、以下の内容を、

改革プランの「自己改革項目」として取り組みます。

1 さらに儲かる農業の実現

(1) 収益向上の取り組み

- ★① マーケットイン(川下ニーズの重視)のさらなる追求と新たな価値の創出
- ★② 組合員の努力が適切に反映される販売手法の構築
- ③ 収益向上に向けた試験研究体制の強化

2 担い手を育みサポートする仕組みづくり

(1) 担い手の確保・育成

- ① 既存の担い手(組合員やその後継者等)の確保・育成
- ② 新たな担い手(新規参入者)の確保・受入れ・育成・定着化
- ③ 新たな担い手としての参入企業の受入れと当該企業との連携強化
- ④ 担い手としての雇用促進
- ⑤ 地域定住者を増やすための農業振興

(2) 組合員の経営サポート

- ① 農地の有効活用
- ② 融資・経営・技術相談
- ③ 労働力補完
- ④ 効率化によるコスト削減
- ⑤ 物流に関するコスト削減
- ★⑥ 生産資材に関するコスト削減

3 発進! 新時代の北海道農業

(1) 6次産業化の推進

(2) 道産農畜産物の海外への発信

(3) 農業・農村の魅力発信

(4) 農業の理解促進

- ① 食農教育活動
- ② 地産地消の推進

4 協同組合の未来方向

(1) 多様なニーズへの総合的かつ創造的な対応

- ① 総合相談窓口機能の発揮
- ② スペシャリストの育成・配置の取り組み
- ③ 事業連携強化の取り組み

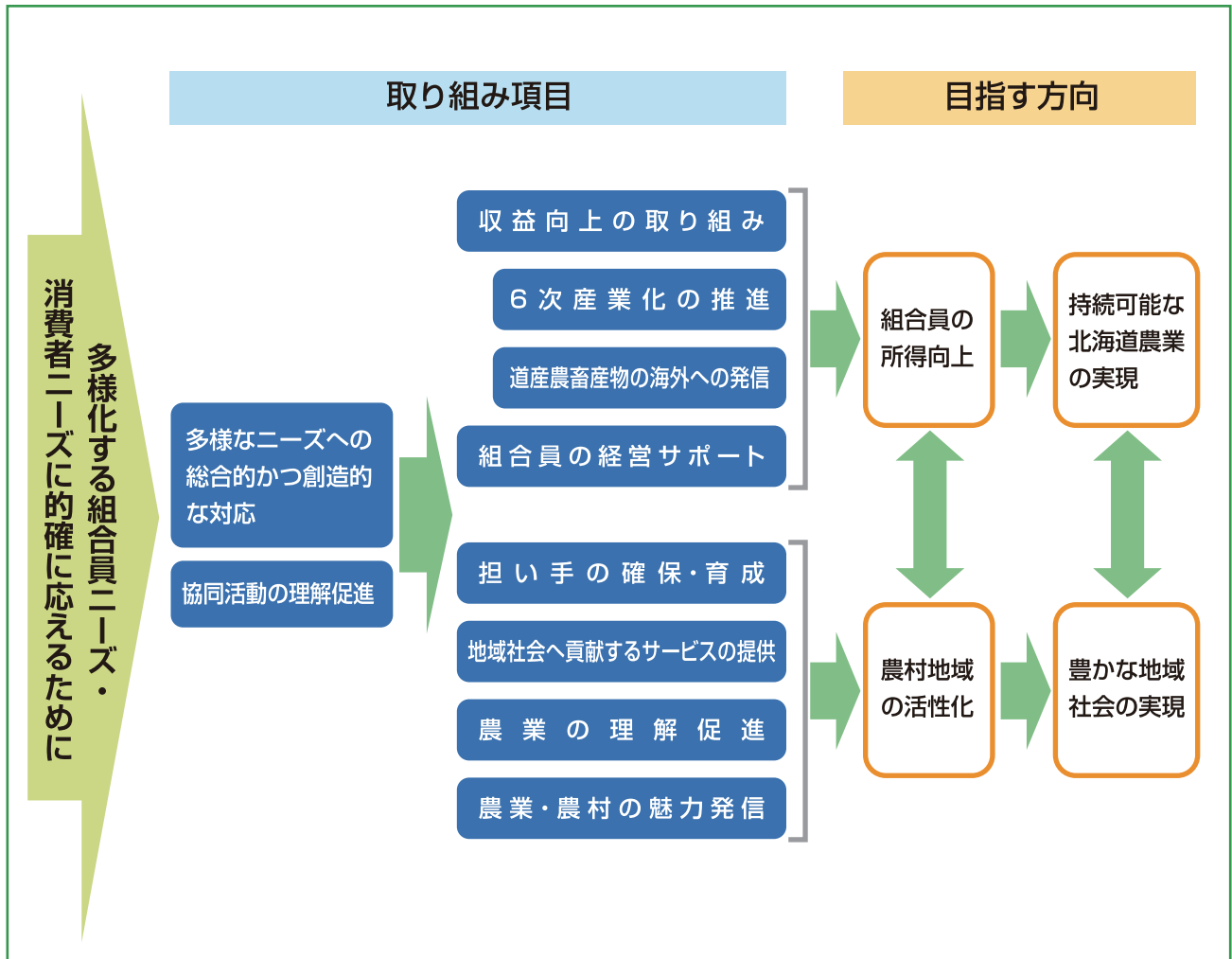
(2) 協同活動の理解促進

(3) 地域社会へ貢献するサービスの提供

各項目の詳細は
「改革プランー実行計画指針ー
詳細版」を参照願います。

組合員組織討議において取り組み要望が強い「組合員の所得向上に直接寄与する項目(収益向上の取り組み、生産資材に関するコスト削減)」については、自己改革における優先事項として位置付け、関連する取り組み項目を「★」で表記しております。

JAグループ北海道 改革プラン —実行計画指針—



- 組合員組織討議を通じて寄せられた全道組合員・JAからの意見提案を受け、JA・連合会・中央会は各々の組織にて、改革プラン実行計画指針で示す自己改革項目について、各組織のこれまでの取り組み状況ならびに組合員との協議を踏まえ、必要な項目を各組織の事業計画や中長期計画に反映し、5年間を期間として自己改革に取り組みます。
- なお、各組織の事業計画や中長期計画等への反映にあたっては、とりわけ組合員組織討議において取り組み要望が強い「組合員の所得向上に直接寄与する項目(収益向上の取り組み、生産資材に関するコスト削減)」を優先事項として位置付けます。

規制改革実施計画に関するJAグループ北海道としての考え方 (平成26年11月)

規制改革実施計画の項目のうち組合員の所得向上に結びつく項目は、組合員組織討議を踏まえて、改革プラン(自己改革)として取り組みます。

信用事業のあり方、准組合員利用規制、組織形態の見直しなどは、組合員の所得向上や農村地域の活性化に結びつかないことから、以下のとおりの考え方とします。

	農協改革の項目と内容	JAグループ北海道の考え方
単協の事業の ありかた ①	単協は、経済事業の機能強化と役割・責任の最適化の観点から、信用事業のリスクや事務負担の軽減を図るため、信用事業を信連等に譲渡し、単協が代理店等となることを選択できる。	経済事業・営農事業と金融事業を一体的に機能させていくため、総合事業体としての更なる機能強化を図る。 なお、単独での機能強化が難しい場合は、JA合併による経営基盤の強化を図る。 また、合併によりがたい場合は、環境変化に応じた事業実施体制を検討し、負担軽減を図るものとする。
単協の事業の ありかた ②	単協が、農産物販売等の経済事業に全力投球し、農業者の戦略的な支援を強化するために、農産物の有利販売に資するための買取販売を段階的に拡大する。 生産資材等は、調達先を徹底比較して最も有利なところから調達する。	共計・共販体制を基本に据えながら、組合員のニーズに応えるため、品目ごとに関与を含む複数の販売方式を設定し、組合員と協議のうえ適用する。 組合員のコスト低減を図るため、各種資材の品質・内容をよく精査し、調達先を選択し仕入れる。
理事会の 見直し	理事の過半は認定農業者及び農産物販売や経営のプロとする。 女性・青年役員を積極的に登用する。	理事の過半は農業者とし、組合員の選択により組合員以外の理事を登用する。 引き続き、女性の経営参画に取り組む。
組合員の ありかた	農協の農業者の協同組織としての性格を損なわないようにするため、准組合員の事業利用について、正組合員との関係で一定のルールを導入する方向で検討する。	准組合員の事業利用規制については、地域サービスの安定的供給の観点から反対する。 准組合員の組織活動の参画や利用者組織の設置、広報誌の発行により協同組合運動の理解を求める。
全農等の事業・ 組織の見直し	全農・経済連は、独占禁止法の適用除外がなくなることによる問題の有無等を精査し、問題がない場合には、株式会社化を前向きに検討する。	独占禁止法の適用によりJA-ホクレン間の共同経済行為ができなくなる恐れがある。 「組合員の所得向上」にとって、より良い組織のあり方を慎重に検討する。
信連・全共連・ 厚生連の組織 形態の弾力化	農林中金・信連・全共連は、金融行政との調整を経た上で、農協出資の株式会社への転換を可能とする方向で検討する。 厚生連は、社会医療法人への転換を可能にするための必要な法律上の措置を講じる。	JA北海道信連は、協同組合組織としての事業運営を基本とし、准組合員利用規制など法規制強化の動向等を注視しつつ組織のあり方を検討する。 JA共済連北海道は、JAが主体となる事業運営方式を前提とし、准組合員利用規制など法規制強化の動向等を注視しつつ組織のあり方を検討する。 JA北海道厚生連は、准組合員利用規制など法規制強化の動向等を注視しつつ組織のあり方を検討する。
中央会制度の あり方	現行の制度から自律的な新たな制度に移行する。 (早期に結論を出す)	JA北海道中央会が果たすべき機能を十分に発揮できる農協法上の中央会制度となるよう、所要の働きかけを行う。

▶ 理事会開催報告

第13回 理事会(定例)議案

日時:平成26年12月16日(火)14:00～ 場所:函館市花びしホテル

- 議案
- 1号 平成26年度決算棚卸及び棚卸抽出検査の実施について
 - 2号 理事に対する平成27年度営農年度組合員勘定供給限度額等及び物品取引契約の限度額について
 - 3号 平成27年度役員報酬額の諮問について

第14回 理事会(定例)議案

日時:平成27年1月26日(月)11:25～ 場所:北斗市農業振興センター

- 議案
- 1号 第3四半期定期監査に対する回答について
 - 2号 平成27年度内部監査計画(案)について
 - 3号 平成27年度事業計画基本方針(案)について
 - 4号 平成27年度事業計画<固定資産取得・処分>(案)について
 - 5号 平成27年度事業計画<取扱・収支>(案)について
 - 6号 平成27年度役員報酬額の決定について
 - 7号 平成27年度営農販売事業における料金・料率の設定について
 - 8号 低温農業倉庫新設工事に係る取進めについて
 - 9号 平成27年度余裕金運用方針(案)について
 - 10号 平成27年度余裕金預け先について
 - 11号 平成27年度金融機関貸付方針について
 - 12号 地方公共団体に対する貸出について
 - 13号 理事に対する貯金・共済担保貸付に係る包括事前承認について
 - 14号 内部統制規程の一部変更について
 - 15号 給与規程の一部変更について
 - 16号 旅費・実費弁償規程の一部変更について

人事異動のお知らせ ※管理職のみ記載〔 〕内は前職

厚沢部支店

◇鶏支店長・調査役
芦野 彰

(厚沢部支店営農課(課長待遇)・調査役)

◇乙部支店長・調査役
吉川 和之

(鶏支店長・調査役)

◇奥尻事業所長・調査役
佐々木 斎

(乙部支店長・調査役)

第17回 道南農業新技術発表会

道南農業試験場などが開発した最新の農業技術等を、いち早く皆様にお伝えします。

日時 平成27年2月27日(金) 13:00～16:00
(受付 12:30～)

場所 厚沢部町町民交流センターあゆみ
厚沢部町新町181-6 TEL:0139-67-2310

参加料
無料

内容

- 斑点米カメムシの効率的防除技術
- 大豆紫斑病の防除技術
- 8～9月どりむけねぎの品種紹介
- さつまいもの栽培技術
- 平成26年度に発生した注意すべき病害虫
- 地域の取り組み事例 など

お問い合わせ先

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構

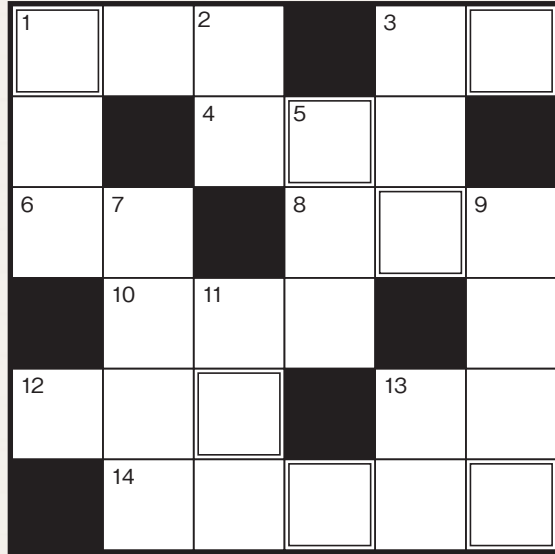
農業研究本部

道南農業試験場

TEL0138-77-8116



まるめ郎の投稿広場



キーワードヒント

北海道で大活躍されたあの方。

あて先 クイズ&投稿のあて先は郵送かFAXまたはメール(ホームページのメールフォームでも送れます)でクイズの他、子供の写真やイラスト、日頃の出来事、広報誌に対するご意見・ご要望もお寄せ下さい。

〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号

JA新はこだて企画室 FAX:0138-77-5566

✉E-mailアドレス ryouji.fujishima@ja-shinhakodate.com

プレゼント クイズの正解者の中から抽選で **3** 名様に

農協ラーメン

(2食入り)

2袋をプレゼント!

どんどん投稿してね!



クロスワードクイズ

二重マスの文字を並べてできる言葉は何でしょうか?
中には今月号のえすぽわーにヒントのカギがあるかも。

タデのカギ

- 1 チュニジアで始まった〇〇〇の春。
- 2 赤ちゃんの〇〇声や、〇〇毛。
- 3 〇〇〇の天使。
- 5 シングル?ダブル?それとも、〇〇〇?
- 7 紙〇〇〇〇、〇〇〇〇雲。
- 9 唯一、県庁所在地にこれがあるのは「さいたま市」。
- 11 〇〇〇空港。
- 13 32です。

ヨコのカギ

- 1 アルバトロスは〇〇〇ドリ。
- 3 横の長さ。
- 4 当JAのホームページリニューアルと共に、フェイス〇〇〇もスタート!
- 6 クラブで使うお金。
- 8 名曲「〇〇〇旅立ち」。
- 10 鳥取空港の愛称になったマンガキャラクター。
- 12 二束三文の由来である「はきもの」。
- 13 6分の1は湖。
- 14 知内町で句を迎えたニラ。(今月号にヒントが...)

ホームページをリニューアルしました! ~Facebookを新たに開設~

2月2日から、当JAのホームページをリニューアルしました。
リニューアルに際したコンセプトは、当JAが今年度掲げる広報活動基本方針テーマ「組合員、地域住民(一般消費者)とJAを結ぶ広報活動」。

今回のリニューアルでは従来の情報に加え、農家組合員専用ページの開設、組合員活動やJAが行う地域貢献活動、「あぐりへい屋」関連情報の充実化を図りました。また、ホームページのリニューアルに合わせてFacebook(フェイスブック)も開始。旬な情報をいち早く皆さまにお伝えします。

アドレスに変更はございませんので、ぜひご覧ください。
<http://www.ja-shinhakodate.jp/>

JA新はこだて

検索



▲リニューアルしたホームページのトップ画面

↓応募用紙はこちら(切り取ってハガキにそのまま貼ってね。)

応募締め切り 2月26日(木)(当日消印有効)

※下記応募用紙には必ず全て記入して下さい。
※コメントのないものは無効とさせていただきます。

キーワード

--	--	--	--	--	--	--

住所

〒 -

氏名

年齢

TEL

ペンネーム

才

組合区分

正組合員・准組合員・その他 ※○を付けて下さい

コメント



広げよう！ 地産地食 図鑑

★11品目★
森らいす

特産食材が見事に調和した「森らいす」サラダ付きで950円(税抜)



温泉熱で育てられた濁川産トマト



森駅のすぐ近くに店舗を構えています

今月のテーマとなる食材は、温泉育ちの濁川産トマト。森駅から徒歩1分の町中心部で飲食店・居酒屋を営む「雅茶一(がちゃびん)」の武蔵和正常務がイチオシする「森らいす」をご紹介します。

森町の特産食材を一皿にした新メニューをとの思いや、役場からのご当地メニューの実現化の要望もあり、メニュー化に着手。試行錯誤の末、濁川産トマトピューレと乾燥シイタケのダシがベースのデミグラスソースを使用した和テイストのハヤシライス在完成。具には地元産のホタテやトンカツ、付け合せに半乾燥させたブルーベリーが乗り、森町の特産食材が結集した一皿になった。ルーは濃厚ながらも他の具材の良さを引き立てています。

武蔵常務は「特産食材が見事に融合した自慢の一皿。森町には美味しい食材がたくさんあるので、新しいご当地メニューにも取り掛かってみたい」と意気込みを話しました。

雅茶一 (がちゃびん)

住所：森町字本町122 TEL：01374-2-3010
営業時間：(月～金) 11:30～14:30・17:30～23:30
(土日祝) 11:30～14:30・17:30～22:30

和テイストの「ご当地ハヤシ

えすばわー新函館

第150号 平成27年2月10日発行

発行／新函館農業協同組合
住所／〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
(北斗市総合分庁舎隣)
電話／0138-77-5555 (代表)
FAX／0138-77-5566
編集／企画室
印刷／有限会社 三和印刷



JA新はこだて facebook

JA新はこだてホームページからもご覧いただけます。こちら、よろしくお願いします。

まるめ郎 アルバム

題名：マルメロード第25章
Day: 2015. 1. 21



知内町の特産品であるニラ「北の華」の収穫が始まりました。おひたし、ニラ玉、ギョウザ... 何にして食べようかな♪

◆実は今月号で150号目の節目を迎えました。私が「えすばわー」の編集担当となったのは117号から。これまでもコーナーが何度か入れ替わったりしてきましたが、今後も「えすばわー」の由来である、読者の皆さんに希望を届ける広報誌を大切に、誌面を進化させていきたいと思っています。

今月号からおそ9年ぶりにホームページがリニューアルとなります。デザインや写真を変えて見やすいページになりました。また、フェイスブックも始まりますので、ぜひこちらもご覧ください。

(諒)

編集後記

「えすばわー」とはフランス語で「希望」という意味。「えすばわー新函館が読者の皆さんに希望を届ける広報誌になって欲しい」という願いが込められています。